

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 1Fせせらぎ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	令和5年11月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角にあり、日中は子供たちの遊ぶ声が聴こえてくる穏やかで落ち着いた環境の中で、入居者様にも穏やかでのんびりしたお時間を過ごして頂いています。ホーム内においても、ふれあいと家庭的な雰囲気や大事にし、入居者様の想いと向き合い尊重し安心して生活が送って頂けるように職員全員が日頃のケアを振り返りながら、ケアの向上に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に程近くの住宅地に位置する2階建て2ユニットの開設12年目の事業所である。広いエクステリアには駐車場や花壇、畑が整備されている。町内会や地域住民との関係も良好で運営推進会議への協力や花壇や畑造りの援助を得ている。感染症流行前は駐車場に食品等の移動販売車が来ており、利用者は元より、地域住民も買い物に訪れていた。地域高齢者世帯の増加も鑑み、地域包括支援センターとその再開を検討するなど事業所資源の還元に向けている。毎月全体会議の中で利用者カンファレンスを行い、利用者の状態像の変化と共に課題として残された案件をサービス担当者会議のフォーマットにその都度記録として残し、今後のより良い介護計画に結びつけているのも特徴である。医療機関との連携を密にし、利用者の適切な医療につながる支援が図られており、一例であるが漢方薬により表情も豊かになり安定した生活が担保された利用者もいる。毎月、医師から出される居宅療養管理指導書「在宅療養生活のポイント」を家族へ送付し、健康管理等で気をつける事柄の周知に至っている。体操やコース、風船パレードなどのレクリエーションを提供したり、食事中はテレビで季節に合った自然風景やクラシック曲のインターネット動画を流している。職員の利用者への接遇は優しく、利用者へ不要な影響となる慌ただしい業務中の音もできる限り抑制するなどの姿もある。利用者1人ひとりに適した介護支援と安心できる穏やかな環境を整えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア一内と玄関に理念を提示し、職員全員が常に理念を意識し意義を確認しながらサービスに努めている。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ3項目の基本理念を標榜し、事業所内要所へ掲示している。毎月のカンファレンスで介護支援を検討する際や、利用者との関わりにおいて、理念を踏まえる事を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過以前のように少しづつ町内会の行事等に参加している。また事業所の花壇造りや町内会の資源回収への協力や回覧板、お手紙等で町内会と情報交換を行っている。	町内会の総会や清掃に管理者が参加したり、町内会の資源回収やアンケートに協力するなど、地域の一員としての関わりを大切にしている。地域住民から花壇造りや畑作業の援助が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の実施により、情報の交換等、認知症の方の支援方法や理解についての説明、話し合いをご家族様や町内会、地域包括支援センターの方等に行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、ご家族様、町内会長、地域包括支援センターに参加して頂いて、状況報告、意見等の収集を行い、良い支援に繋がるサービスの向上に活かす事が出来る様に努めています。	運営推進会議は参集にて開催し、各種報告に基づく質疑応答や出席者から地域の情報を得ている。事故報告や職員の入退職の状況も議題に載せ、議事録には、出席者の意見等も記載し関係者へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールで情報交換を行い、相談出来る様に努めている。又、地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂き、情報交換し共有に努め協力関係作りに取り組んでおり、市に入退居等の報告を行い助言や指示を頂いています。	市の担当者へ運営に係る案件や制度上について意見等を仰ぎ、指導や助言を得ている。市の保健所看護師による感染症対処法等の研修を受講しており、利用者の健康管理支援に役立てるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・不適切ケア委員会を3ヶ月に1度開催し、身体拘束・不適切ケアの内部研修を年2回全職員対象に行っており、職員間でも現場、会議、カンファレンス等で確認し合い取り組んでいる。また、新入職者は初日のオリエンテーションにて内部研修を行っています。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、不適切ケア防止(身体拘束適正化・虐待防止)委員会とこれらに係る内部研修を定期開催している。委員会では、これらの発生の予防・防止に関する業務内での取り組みも検証している。研修後は職員個々に研修報告を提出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施や、職員同士で情報や意見の交換をし、日常のケアを振り返りながら職員一人一人の意識を高める様に努めている。また、新入職者は初日のオリエンテーションにて内部研修を行っています。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度を利用されている入居者様がいないため、今後、研修等に参加し制度について理解していく様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前や、契約の締結時に契約書または重要事項説明書を基に疑問点を尋ねながら説明を行い納得頂いた上で契約しています。また、改定があった際には法人からの書面等で説明対応し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、ご意見やご要望を伺っています。来訪時には職員から声掛けを行い、日頃の様子をお伝えし、入居者様やご家族様が気軽に声をかけて頂ける様な雰囲気作りを心掛け、ご意見・ご要望に耳を傾ける様に努めています。	利用者からの帰宅の訴えには、意志を尊重しつつ本人が自ら最良の判断ができるように対応している。家族へは何かあればその都度、電話等で状況を報告し、意見や要望等、何でも伝えてもらえる雰囲気や環境に配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの他に、日常業務を通じ、いつでも面談を実施し、面談以外でも常日頃より意見や提案が出来る環境作りを心掛けており、申し送り等でその機会を設け運営に反映される様に努めています。	管理者が必要時に職員面談を行い、職員の思いや意向、相談等に応じている。月1回、全体会議を開催し利用者カンファレンスや業務案件について意見討議を行い、より良い利用者支援と業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で定期昇給や勤続年数での表彰、また資格に応じた昇給や資格支援制度等、職員がやりがいを持てる条件の整備に努めており、職場環境の向上が図れるように様々な取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の内部研修にてeラーニングを活用し、個々に合わせた研修を実施し、職員のスキルアップに繋がる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前に行われていた手稲区管理者会議がコロナ過の影響で実施されていないが、空室状況に関する情報交換が行われている。また、同法人内の管理者研修やオンライン会議を通じて交流し情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の相談時から可能な範囲で、直接ご本人からご要望や困っている事等をお聴かせ頂き、職員間で把握し周知した上で、安心してサービスが受けられる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のご相談や見学時から困っている事や不安な事、またはご要望等をお聴かせ頂き、ご家族様の意向を理解し信頼関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からご本人やご家族様から必要とされるケアや生活支援に関してお聴きし、入居後に必要とされている支援を提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今までの生活歴や生活史を理解し、日々の変化に気付けるよう、寄り添いながら時間を掛けて信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来訪時や定期的にご本人の生活状況をお伝えし、状況に合わせたご本人らしい生活とは何かをご家族様と一緒に話し合い、共に支えていく支援を行っています。また、ご来訪時には居室でご一緒に過ごして頂く時間を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が再開されてから馴染みの知人の来訪、または電話やお手紙等、いつでも連絡して頂ける様に努めており、関係が途切れない様に支援している。	家族との直接の対面が再開され、居室でゆっくりと過ごせるようサポートしている。知人、友人も訪れている。手紙や電話も利用者個々の希望に応じて支援している。家族との一時帰宅や外食、墓参などに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を把握しながら、楽しんで頂ける様な話題や行事等を支援出来る様に配慮しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、その後のご本人の様子を伺ったり、またご家族様からご連絡を頂き、ご要望がある時は随時ご相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人のご希望や想いを汲み取れる様に心掛けており、また、意思疎通が困難な方にも、言動や表情から汲み取り、ご家族様の意向を踏まえながら向き合える様に努めています。	職員は日々の暮らしの中で利用者の思いや意向、訴えを受け止め、生活の希望を把握している。表出が難しい場合は、推察や家族から情報収集し、本人本位となる暮らしの検討に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活環境等、随時ご家族様から情報を頂きながら、職員間で共有し個々に添ったサービスが提供出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや連絡ノート・介護記録等で、現状の把握・対応を職員間で常に共有し合い、心身の状態や変化に都度対応出来る様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや日々の生活状況と職員の意見やご家族様を通じてのご本人の想いなどの情報を収集し、現状にあった介護計画が作成出来る様に努めています。	毎月の会議で利用者カンファレンスを実施して状態像を話し合い、サービス担当者会議のフォーマットにその都度記載し、課題を明示している。本人、家族の意向や医師による居宅管理指導書も参考にし介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はiPadとPCで管理・記録しており、記録や情報を共有出来る環境が整っている。またその他に職員間での連絡ノート・メモにて送り漏れが無い様に情報を共有し、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況や要望に合わせて、個別に対応し柔軟な支援に繋がる様に心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括支援センター等にご協力をお願いし支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の往診医が月2回健康管理を行っており、個々に応じた受診に対応し、緊急時には24時間連絡が取れる体制が整っている。また、状態に応じて他の専門医の受診対応を行い、適切な医療を受けられる様に支援しています。	月2回協力医療機関による訪問診療、歯科の往診や医療連携による訪問看護の健康管理支援の体制を整えている。専門他科受診の際は、家族の協力も得て対応している。毎月家族へ居宅療養管理指導書「在宅療養生活のポイント」を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より訪問看護師に健康管理や状態変化、現状を報告し相談やアドバイスを頂き、特変時には24時間体制で連絡が取れる体制も整っており、適切な指導を受け対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とご家族様と随時情報を共有し、入院中の状態を把握し、退院時の対応が速やかに行える様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際に重度化や終末期について十分な説明を行っています。重度化が見込まれ、医療行為が必要となりホームでの生活が困難と予測された場合でも、ご本人とご家族の意向を踏まえて、一緒に考えながら支援していける様に努めています。	「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用契約時に家族へ説明し同意を得ている。看取りは行っておらず、医師の判断に基づき今後の方針を家族と話し合い、医療機関への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員で把握に努めています。初期対応に関しては定期的に話し合いや研修を行い対処出来る様に心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、職員全員が避難誘導員になれる様に努めています。またコロナ過以前は町内会・近隣の方にも協力して頂いていたので、今後は再び参加をお願いしていきたい。	令和5年6月、日中想定火災避難訓練では1・2階ユニット其々に出火場所を想定し避難誘導を行った。年内に夜間想定火災避難訓練を計画している。地域協力者、災害備蓄品を確保している。自然災害発生時における業務継続計画を策定している。	地震・水害想定訓練を近隣住民の協力を得て取り組む事としているので実現に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応等、尊厳を損なわない様に留意、配慮し、職員が入居者様の立場に置き換えながら、プライバシーを損なわない日常生活を送れる様に心掛けています。また職員同士で言葉かけについて話し合い意識を高める様に努めています。	聴力が低減している利用者への声の大きさやトーンについて、思わずエスカレートしないようカンファレンスでの話し合いや職員間で伝え合うなどし、適切なものとなるようにしている。個人記録類は、PC、iPadで管理し紙媒体のものは事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や想いを傾聴し汲み取りながら、想いに気付ける様に努め、自己決定出来るように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、ご本人中心に考え出来る限りご希望に沿える様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各個人の個性やおしゃれ心を大切にし、その人らしい身だしなみを整える様に支援しています。また、毎月、訪問理美容サービスにて可能な範囲でご自身の希望でカット等をされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽と季節の風景を流しながら、食事と会話を楽しむ雰囲気作りを心掛けています。また食後は職員と一緒に談話されながら、食器洗いや食器拭きのお手伝いをして頂いています。	法人の季節行事食が反映された献立で提供している。食事の華やかさにも気を配り、誕生日食や間食をアレンジしたり、畑の収穫物を副食に加えるなどしている。毎食、代表して自ら食前の挨拶をする利用者や後片付けをするなど、出来るところで食事作業に携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は専任の管理栄養士が作成しており、バランスの整った食事を提供しています。また、水分摂取量は職員が1日の水分表にて把握し、個別に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科診療にて、職員が口腔ケアの指導を受け入居者様の口腔ケアに活かしており、毎食後ご本人の能力に応じて、口腔ケアの支援や義歯の洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄間隔に合わせて声掛けし、トイレにお連れし見守っています。排泄チェック表を使用し、ご本人の排泄サイクルを理解し、支援に役立てています。また、可能な限りトイレでの排泄の自立に向けての支援を行っています。	排泄が自立している利用者や行きたい時に自ら手を挙げ職員へ知らせる方もいる。誘導が必要な利用者へは、本人の排泄の周期やタイミングを見計らい誘っている。座位が取れない場合や夜間帯の個々の状況によりベッド上で排泄用品を交換している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて把握し、水分摂取量に気を配り、毎日の乳製品の提供等で便秘の予防に取り組んでいる。また、必要に応じて、医師の指示のもとにより下剤の調整を行い対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各個人の体調や希望に沿って入浴して頂いています。入浴を拒否される場合も声掛けやタイミング、入浴の順番や日にちを変える等の工夫をし気持ち良く入浴して頂ける様に心掛けています。	職員配置に鑑み、曜日や午前・午後の時間帯を問わず対応しており、入浴当日に今日は入浴の日である事を予め本人に伝えている。冬場の脱衣室は床暖と電気ストーブで保温しヒートショック対策を講じている。1人ひとり湯を交換し、利用者の入浴手順の習慣や湯温の希望に沿い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣に配慮し、一人ひとりの就寝時間に沿って気持ち良く休んで頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬情報を職員全員で把握し、変更や副作用についてもその都度、申し送り等で周知しています。また用量等についても、一覧表で示しており、服薬方法や誤薬を防ぐ手段を話し合い実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴と現在の状態を把握し、それぞれのニーズに沿った楽しみ方や役割分担、または気分転換に繋がる様に模索しながら支援しています。		



ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過による感染予防対策の為、外出制限をしていたが、現在は少しづつ散歩や外気浴、ホームの駐車場横の畑の見学等を職員と一緒に出来る様に支援している。また、ご家族様との外出に対しては常時行っています。	事業所周辺の散歩や花壇、畑を眺めたり、ベランダでの外気浴を行っている。家族と外食や一時帰宅などで外出する利用者もいる。感染症流行前は地域住民も利用できる移動販売車が駐車場に訪れており、現在、再開を検討している。	外出支援を含め活動の幅を広げたいとの考えを示し、以前取り組んでいた移動販売車による買い物支援の再開も検討中である。冬場の買い物支援としても好機であり、地域密着型の多機能性の発揮にも繋がるので実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理はご家族様がされており、入居者様は所持していません。ご本人からのご要望があった場合はホームで立替えて職員が買い物を代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時はご家族様等にホームの電話でかけて頂いています。またお手紙が来た際はお渡ししたり、目が不自由な方には職員が代わりに読んで、ご本人にお伝え出来る様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビングを含めた共有スペースは広々とした空間が広がり、どこからでも見渡せる造りになっており、随所に季節を感じられる装飾を施し、ゆったり過ごして頂ける様になっています。また各居室の間にトイレがあり、脱衣場にも設置しており、車椅子が利用出来る様に広い造りになっています。	全体的に家庭的な雰囲気があり、温もりが感じられる空間である。食堂と居間は一体的な造りで広々としている。利用者と職員と一緒に制作する壁面飾りは季節毎にモチーフを工夫している。時計の設置は利用者目線に配慮し、手作り日めくりもある。エアコン、床暖房を設備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで各個人が居心地良く過ごして頂ける様に家具の配置や装飾の工夫を行い環境作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からご本人の馴染みの家具等や思い出の品等を持ち込んで頂く事により、安心してお過ごし頂ける様に支援しており、また、ご本人の状態の変化に伴い、家具等の配置をご本人やご家族とご相談し、安全にも考慮した居住空間造りを心掛けています。	居室入り口には名札を設置し、室内には床暖房、クローゼット等の備え付けがある。馴染みの家具や生活用品類が持ち込まれ、愛着のある品々やテレビ、遺影を置いている方もいる。利用者の動線や足元の安全を最優先して居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内全てバリアフリーになっており、入居者様が安全に移動出来る様に各所に手摺を設置し、トイレ内も車椅子が使用し易い造りになっています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームとみおか 2Fそよかぜ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	令和5年11月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の一角に位置しており、近隣周辺の子供たちの遊ぶ声が聞こえる穏やかな環境の下、入居者様も穏やかにのんびりと過ごされています。  
ホーム内においては家庭的な雰囲気とふれあいを大切にし、お手伝いやレクリエーション活動等一人ひとりが出来る事を継続しながら意欲を持って生活出来るよう職員全員で取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有出来るように各ユニット内と玄関に掲示しており、職員や来訪者の方々の目にも触れるようにし常に意識しながら実務への反映が出来るように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降行事への参加等直接交流出来る機会は減っているが、回覧板やお手紙での情報交換、運営推進会議にご参加頂いての近況報告を行い繋がりを保持している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて御家族や町内会、地域包括支援センター等に状況報告や認知症ケアの理解、支援方法の説明や話し合いを行う機会を作り取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に会議を開催し御家族や町内会、地域包括支援センターに参加して頂き、日常報告等の情報交換を行い、そこでの意見等を含めその後のサービス向上に活かす事が出来るように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂き情報交換、共有に努め関係づくりに取り組んでいる。制度上わからない事があれば連絡を取り協力体制を築けるよう働きかけている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員研修を行い職員の意識と理解を高める取り組みを行っている。職員間では不適切なケアに至る事が無いようお互いに現場や会議、カンファレンス等で確認し合いながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に定期的に研修を実施し職員の理解を高める取り組みを行うように努め、職員同士での話し合いを行い注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修や勉強会を行い、理解を深め活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点について理解され納得頂けた上で契約を締結出来るよう十分な説明を行っている。改定時は法人からの書面や御家族の来訪時に説明する事でご理解頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に職員から声掛けを行うようにし話しやすい雰囲気作りに努め、日頃の御様子をお伝えし御意見を伺えるように心掛けている。遠方にお住まいの御家族には電話やお手紙で近況をお伝えし御希望や御意見をお伺いしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務を通じて、常日頃よりいつでも面談を実施する機会を作っている。また、面談以外でも意見や提案が出来る機会を申し送りや会議で設け、業務に反映出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上を図れるよう常に様々な働きかけや取り組みを行っている。法人内においては定期昇給や勤務年数による表彰、資格に応じたの昇給等、職員がやりがいを持てるような条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にて個々に合わせた研修が実施され、その他にeラーニングを使用し職員のスキルアップに繋がるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートでの会議や研修への参加、他事業所との情報交換を行い交流を持てるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学時の段階でご本人のご希望や不安な事、困っている事を確認し、入居後も同様に耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時に困っている事や不安な事、要望等を詳しくお伺いし、入居後も御本人の日常の御様子を報告し御家族と共有する事で信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の意向を確認し、ニーズを把握し支援の方法を見極め、必要としているサービスを実施出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を把握し、お手伝いやレクリエーションを通し役割、やりがいを持って頂き、職員と会話を交わしながら行う事でお互いの関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に入居者様の近況をご報告し情報を共有すると共に、ご家族のご要望をお聞きし信頼関係を築けるよう努めている。遠方にお住まいのご家族にはお電話やお手紙、リモートで状況をお伝えする機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人の方の来訪、お電話やお手紙のやり取りが継続出来るよう支援し、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、トラブルの無いよう職員が調整役となり、各自が支え合い孤立せず関わりが持てるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご相談に随時対応し、良好な関係を継続出来るよう努めている。御家族から退去後の御様子をお手紙や電話で御連絡頂く事もあり、出来る限りの支援が行えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で御本人の表情や言動から思いや希望を汲み取れるよう心掛け、職員間で共有し出来る限り御本人の意向に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族からこれまでの生活スタイルや生活歴等の情報を聞かせて頂き、支援に必要な情報を把握しケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の関わりの中で状態の変化が見られた場合は、介護記録や申し送り等で状況を把握し共有出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を行い、御本人の意向や御家族のご要望を尊重しながら職員間で意見を出し合い、御本人にとって必要とされるケアプランの作成を心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンとiPadで記録・管理を行っており、すぐに情報を共有出来る環境が整っている。連絡ノートも併用して活用し、個々の情報を把握しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族の様態や状況に合わせて個別に対応し、柔軟な支援に繋げる事が出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括支援センター等のご協力を頂き、支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回健康管理を行っており、状態に応じて他の専門医の受診対応を行い、適切な医療を速やかに行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より訪問看護師に協力を仰ぎ、健康管理や状態の変化を報告、相談し助言や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と情報交換を密にし早期退院に向けて調整を行い、入院中の状態を把握し退院後も安心して生活出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期について十分な説明を行っている。重度化が見込まれる場合は早い段階で御家族と相談し、御本人と御家族の意向を確認しながら医療機関、地域の関係者と連携を取り支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルがあり、職員全員で把握に努めている。初期対応に関して定期的に研修や話し合いを行い冷静に対処出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防災・避難訓練を年2回実施しており、職員全員が避難誘導出来るよう取り組んでいる。今後は地震・水害についての訓練、近隣の方々のご協力を頂いての実施についても取り組んで行く。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の尊厳やプライバシーに留意し、言葉かけや対応を常に意識するよう努めている。また、職員同士で不適切な言葉かけについて話し合い意識を高めるよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を日々の生活の中で出来る限り汲み取り、自らが選択、決定出来るよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを大切にし、日課の流れに縛られる事の無いよう出来る限りご本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みを考慮し、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。毎月訪問理美容サービスを利用する事が出来、可能な限りご自分の希望でカット、染髪をされている。		



ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や味見、食後の食器拭きやおしぼりたたみ等、入居者様がそれぞれ出来る事をお手伝いして頂いており、職員も交え会話を楽しみながら取り組まれている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しており、バランスの整った食事を提供している。食事、水分の摂取量について全職員が把握し個別に対応出来るよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じた支援、介助を行っている。訪問歯科医協力の下、口腔状態の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄に繋げている。声掛けを工夫し配慮しながら自立に向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト等の乳製品を提供する他、運動や水分摂取量の把握を行い自然排便に繋がる支援を行っている。状況により訪問診療医に相談し下剤の調整を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人のペースに合わせ職員との会話を楽しみながら入浴出来るよう努めている。拒否があった場合は無理せず、声かけやタイミングを工夫したり日にちを変更する等、ご希望に添えるよう支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活習慣に合わせて、ご自分のペースで休息が取れるよう環境を整えている。夜間に安眠出来るよう日中帯の活動を考慮し不眠に繋がらないよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を職員間で常に把握し、誤薬防止の方法を話し合い徹底するよう努めている。薬の変更時には状態観察をし把握するよう全職員で取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の生活歴や現在の状況を把握し、職員間で話し合いながら個々のニーズに合った役割分担や楽しみごとを持てるよう、レクリエーションやお手伝いの依頼を行っている。			

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類移行後通院以外の御家族との外出の支援を再開している。また、ベランダや駐車場での外気浴、花壇、畑の見学、収穫等を可能な限り行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人は金銭を所持されず、御家族が金銭の管理を行われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に応じていつでも電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。遠方にお住まいのご親族とZOOMで談話を楽しまれている方もおり、個々の状況に合わせ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるリビングは全てを見渡す事が出来、全ての居室から行き来し易い造りになっている。同じ空間にあるカウンターキッチンが入居者様からも間近にあり、料理の音や生活音を直に感じられるようになっている。また、季節毎に装飾等を入居者様と作成し、季節感を感じられるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりが安心して過ごせるようスペースを確保している。状況に合わせて席を移動され他入居者様との交流を図れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から御本人、御家族と話し合い、使い慣れた物や馴染みのある家具をご持参頂き、落ち着いて安心した生活が出来るよう支援している。また、状況の変化に伴い家具等の配置を御本人や御家族と相談し安全面も考慮した居住空間造りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は全てバリアフリーになっており、入り口から全ての居室やリビング、キッチンを見渡せる環境で解り易い構造になっている。移動時は随所にある手摺が設置されている他トイレ内も手摺があり安心して生活出来る環境下にある。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームとみおか

作成日：令和 6年 1月 6日

市町村受理日：令和 6年 1月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・水害想定 of 訓練を近隣住民の協力を得て取り組んでいない。	地震・水害想定 of 訓練を近隣住民の協力を得て取り組むように実施する。	近隣住民・町内会に地震・水害想定 of 訓練への参加や見学等も含めて運営推進会議等で声掛けをし、協力を仰ぎ体制を整えていける様に努める。	6ヶ月
2	49	コロナ禍により規制があった外出支援を含めた活動の幅が狭まっており、以前取り組んでいた移動販売車による買い物支援も中止しており、地域密着型の多機能性が損なわれている。	コロナ禍により規制があった外出支援を含めた活動の幅を広げ、移動販売車の再開や冬場の買い物支援等、地域密着型の多機能性を発揮出来る様にする。	コロナ禍以前の外出活動やユニットでの合同レクリエーション活動を活発に行い、また、移動販売車の再開等を含めた地域の方々との交流に繋がる支援が出来る様に務める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。